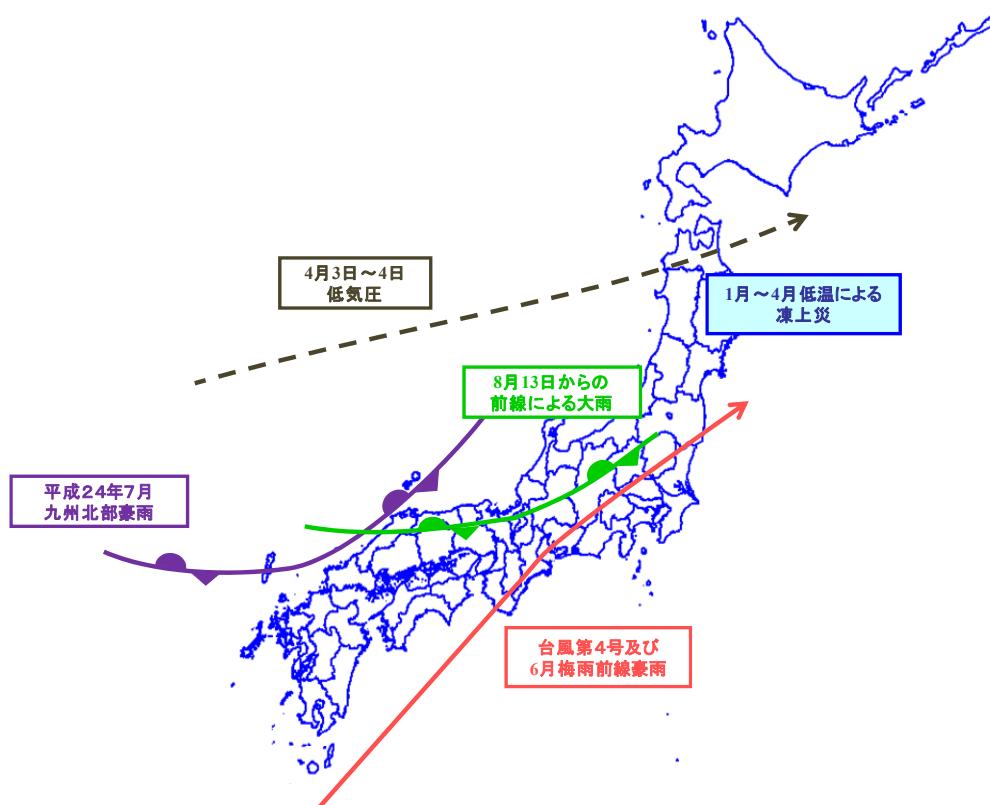


I 平成24年発生災害の概要

平成24年発生災害における国土交通省所管の公共土木施設（河川、道路、海岸、下水道等）の被害は、直轄で約161億円（115箇所）、補助で約2,151億円（13,693箇所）、合計で2,312億円（13,808箇所）が報告されている（平成25年3月29日現在）。この被害報告額は、過去最大であった平成23年被害報告額と比較すると、1割程度となっており、平成23年発生災害を除いた過去4カ年（H19～H22）平均被害額と比べると約1.5倍となっている。

主な災害としては、平成24年1月以降、北日本から西日本にかけて極端な低温傾向が続いたことに伴い、道路の地盤が凍結した結果、道路のひび割れ、不陸などが発生した凍上災、3月7日には新潟県、4月10日には山形県において融雪により発生した大規模な地すべり災害、4月3日から4日にかけて低気圧により北日本から西日本で記録的な暴風及び高波による日本海側沿岸部での被害、5月6日に大気が非常に不安定となり発生した竜巻による茨城県・栃木県を中心とした被害、6月12日に発生し、沖縄から東北地方の広い範囲で大雨となった「台風4号」、7月11日から14日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、九州北部を中心に記録的大雨となった「平成24年7月九州北部豪雨」、8月13日から14日にかけて、前線の影響大雨による京都府を中心とした被害などがある。

これらの自然災害について、発災直後より災害情報連絡担当官（リエゾン）や緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）等を派遣し、被災状況の調査や、被災自治体への早期復旧・復興及び二次災害防止に向けた技術的助言などを行った。



平成24年発生災害における主な異常気象

①凍上災における被害状況等について

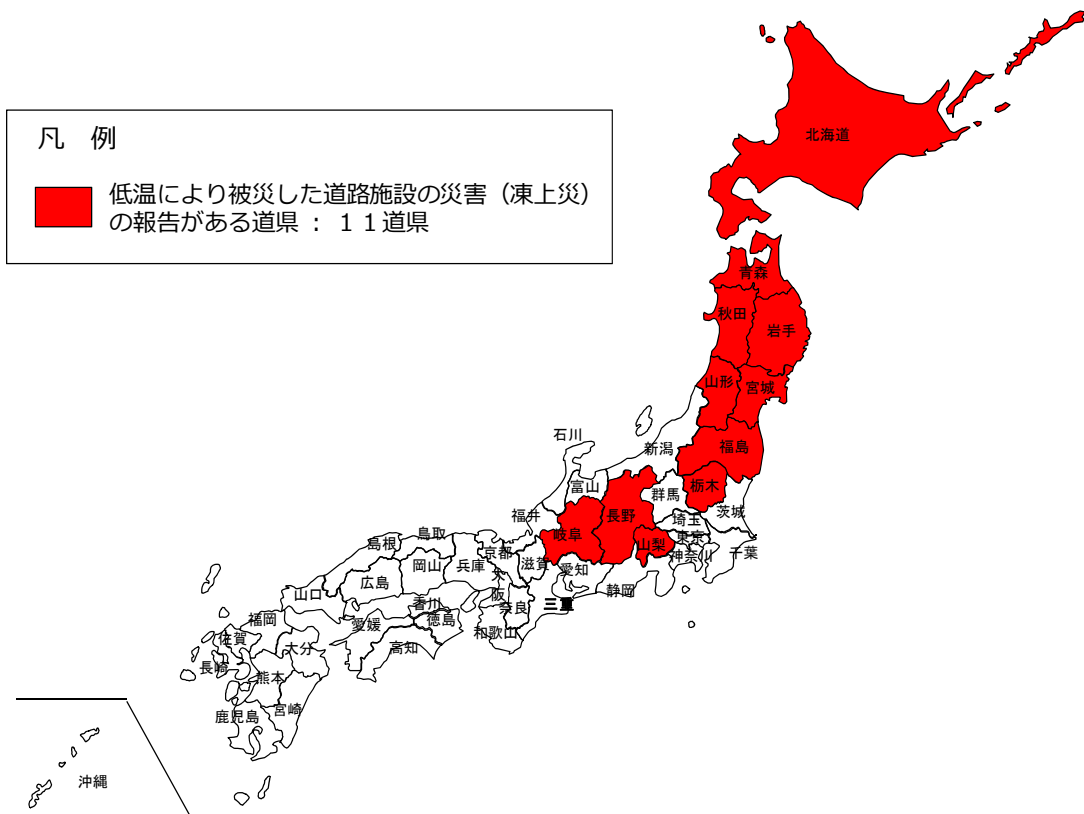
平成 24 年 1 月以降、冬型の気圧配置が強く寒気の影響を受けやすかったため、北日本から西日本にかけて冬の平均気温が低く、日本海側ではたびたび大雪となり、ここ 10 年間では「平成 18 年豪雪」に次ぐ積雪となった。これらの低温により道路の地盤が凍結した結果、道路のひび割れ、盛上がり、沈下などの凍上災被害が北日本を中心に 11 道県で 1,981 箇所、約 378 億円の被害が発生した。なお、広域で凍上災が発生し災害復旧事業の対象とすることは、平成 18 年以来で 6 年ぶりであった。



舗装面の亀甲状クラック及び盛り上がり、沈下（青森県東北町）



舗装面の亀甲状クラック及び盛り上がり、沈下（山形県東根市）



②低気圧による暴風・高波の被害状況等について

4月2日に華北で発生した低気圧は、3日に急速に発達しながら日本海側を北北東に進んだ。この低気圧からのびる寒冷前線が西日本から北日本を通過し、その後4日に低気圧は北日本を通過してオホーツク海に達した。このため、西日本から北日本の広い範囲で記録的な暴風となり、海上では大しけとなった。4月3日から5日9時までに観測された風速が、和歌山県和歌山市友ヶ島では32.2メートルとなるなど、強いところでは30メートルを超え、暴風の目安となる風速20メートルを越えた観測地点は78地点に達し、75地点で観測史上1位を記録した。この暴風・高波により、西日本から北日本の日本海側で、海岸保全施設の崩壊など被害が発生した。

国土交通省所管の公共土木施設については、80箇所、約99億円の被害が発生した。（直轄・補助計）



本荘海岸における護岸の崩壊状況
(秋田県由利本荘市)



比子地区海岸における護岸の崩壊状況
(山形県遊佐町)



和木波子海岸における護岸の崩壊状況
(島根県江津市)

③台風4号及び6月梅雨前線豪雨の被害状況等について

6月12日にフィリピンの東海上で発生した台風4号は、19日17時過ぎに強い勢力で和歌山県南部に上陸し、同日20時に愛知県東部に再上陸、東海地方から関東甲信地方そして東北地方を通過し、20日明け方に三陸沖を抜け温帯低気圧となった。台風と梅雨前線により、沖縄から東北地方の広い範囲で大雨となり、6月18日0時から20日24時までに観測された最大1時間降水量が、神奈川県山北町丹沢湖では81ミリとなり、観測史上1位の値を記録、その他全国各地で1時間雨量60ミリ以上を観測した。

この大雨により、全国各地で浸水被害等が発生し、死者1名、負傷者79人、全壊1棟、半壊1棟、一部損壊115棟、床上浸水54棟、床下浸水231棟の人的・住家被害（8月10日消防庁調べ）を受けている。

国土交通省所管の公共土木施設については、1,721箇所、約189億円の被害が発生した。（直轄・補助計）

○ 一般被害（消防庁調べ：平成24年8月10日時点）

人的被害（人）			住家被害（棟）				
死者	行方不明者	負傷者	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
1	—	79	1	1	115	54	231

○ 公共土木施設被害（国土交通省所管 直轄・補助）

	直轄	鹿児島県	宮崎県	静岡県	その他	合計
箇所数	6	183	163	80	1,289	1,721
額(億円)	4	17	19	24	125	189



新川における破堤状況（宮城県）



国道448号における路肩欠壊状況（宮崎県）

④平成24年7月九州北部豪雨の被害状況等について

7月11日から14日にかけて、本州付近に停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、九州北部を中心に大雨となった。熊本県阿蘇市阿蘇乙姫では、7月11日0時から14日24時までに最大1時間降水量が108ミリ、最大24時間降水量が507.5ミリと観測史上1位を記録した。これらを含め福岡県・佐賀県・大分県で記録的な大雨を観測し、8地点で観測史上1位の値を更新した。

この豪雨により、福岡県、熊本県、大分県等で浸水被害や土砂災害、道路崩壊などが発生し、死者30名、行方不明者2名、負傷者27名、全壊363棟、半壊1,500棟、一部損壊313棟、床上浸水3,298棟、床下浸水9,308棟の人的・住家被害（8月10日消防庁調べ）を受けている。

国土交通省では、発災直後より災害情報連絡担当官（リエゾン）を被災自治体に派遣し情報収集等を実施するとともに、現地に緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を派遣（延べ派遣数1,059人・日：平成25年2月19日時点）し、防災ヘリによる上空からの公共土木施設の被害状況調査を行った。また、排水ポンプ車による浸水域の解消、衛星通信車による被災箇所復旧状況の中継し県へ情報提供、被災自治体の早期復旧及び二次災害防止に向けた技術的助言などを行った。

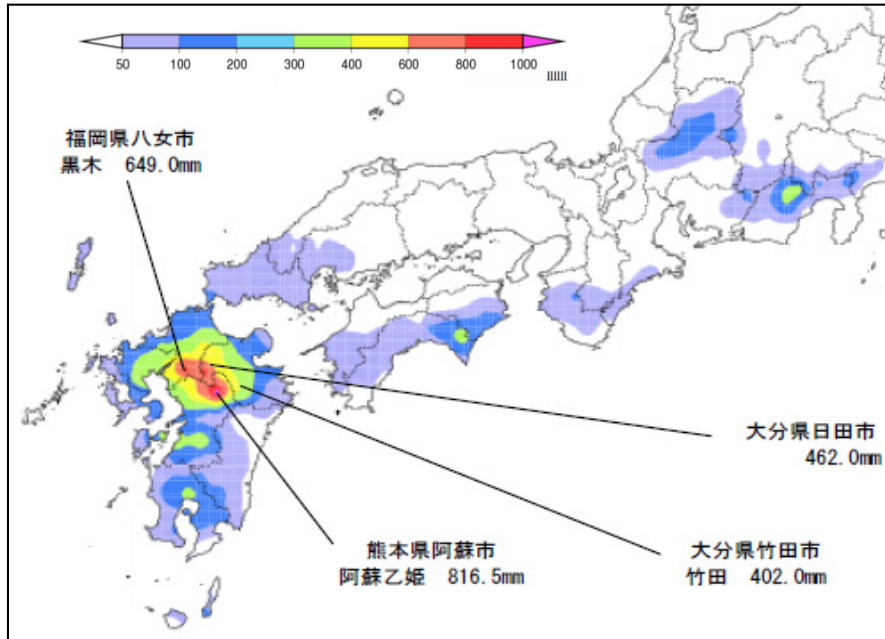
国土交通省所管の公共土木施設については、7,128箇所、約1,031億円の被害が発生した。（直轄・補助計）

○ 一般被害（消防庁調べ：平成24年8月10日時点）

人的被害（人）			住家被害（棟）				
死者	行方不明者	負傷者	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
30	2	27	363	1,500	313	3,298	9,308

○ 公共土木施設被害（国土交通省所管 直轄・補助）

	直轄	福岡県	熊本県	大分県	その他	合計
箇所数	84	1,704	1,281	1,750	2,309	7,128
額(億円)	110	340	183	260	138	1,031



期間降水量分布図（7月11日～14日）（出典：気象庁発表資料）



白川における浸水状況（熊本県）



矢部川における浸水状況（福岡県）



県道八女香春線における法面崩壊
（福岡県）



国道502号における路肩欠壊
（大分県）

⑤ 8月13日からの前線による大雨の被害状況等について

8月13日から14日にかけて、朝鮮半島から日本海中部へのびる前線がゆっくりと南下し、本州付近に達した。前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、近畿中部を中心に大雨となり、局地的に猛烈な雨が降った。8月13日0時から14日24時までに観測された最大1時間降水量が、大阪府枚方市枚方では91ミリ、京都府京田辺市京田辺では78ミリとなり、それぞれ観測史上1位の値を記録した。

この豪雨により、京都府、大阪府等で浸水被害や道路崩壊などが発生し、死者2名、行方不明者1名、負傷者4名、全壊14棟、半壊12棟、一部損壊30棟、床上浸水1,663棟、床下浸水7,200棟の人的・住家被害（8月17日消防庁調べ）を受けている。

国土交通省所管の公共土木施設については、206箇所、約27億円の被害が発生した。（直轄・補助計）

○ 一般被害（消防庁調べ：平成24年8月17日時点）

人的被害（人）			住家被害（棟）				
死者	行方不明者	負傷者	全壊	半壊	一部 破損	床上 浸水	床下 浸水
2	1	4	14	12	30	1,663	7,200

○ 公共土木施設被害（国土交通省所管 直轄・補助）

	直轄	京都府	その他	合計
箇所数	3	108	95	206
額(億円)	0.5	18.5	8	27



志津川における護岸崩壊状況（京都府）



弥陀次郎川における破堤状況（京都府）